秋季特別展「うつりゆく甲と冑ー弥生から江戸へー」関連展示

冑を被った武人の埴輪

6世紀前半

坂元遺跡（加古川市野口町）の古墳の周溝から円筒埴輪などとともに人物埴輪が見つかりました。この人物埴輪は残念ながら頭部しか復元できませんでしたが、正面に帽子のつばのような庇がつく眉庇付冑と呼ばれる冑を被り、頸部には首をまもるための錣を着けた武人埴輪だとわかりました。大きさは実際の半分くらいに作られています。武人の頭部は空洞で目は刳り抜いて表現しています。

この埴輪の元になった眉庇付冑は5世紀中頃から6世紀に流行し、鉄板を鉄鋲で留めて組み合わせて作られています。眉庇付冑は特別展「うつりゆく甲と冑-弥生から江戸へ-」において加西市の亀山古墳出土品（東京国立博物館所蔵）を展示します。

（学芸課　篠宮　正）

武人の埴輪